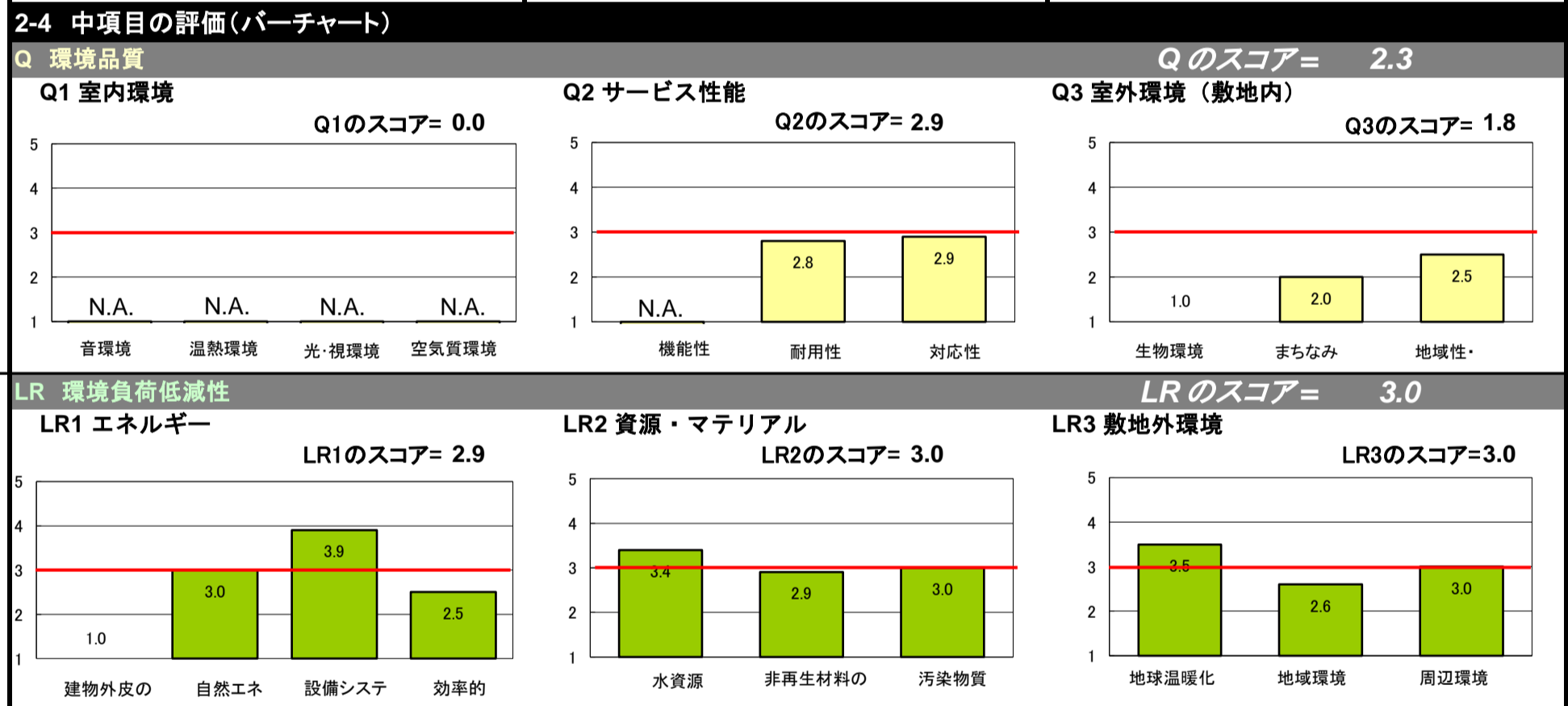
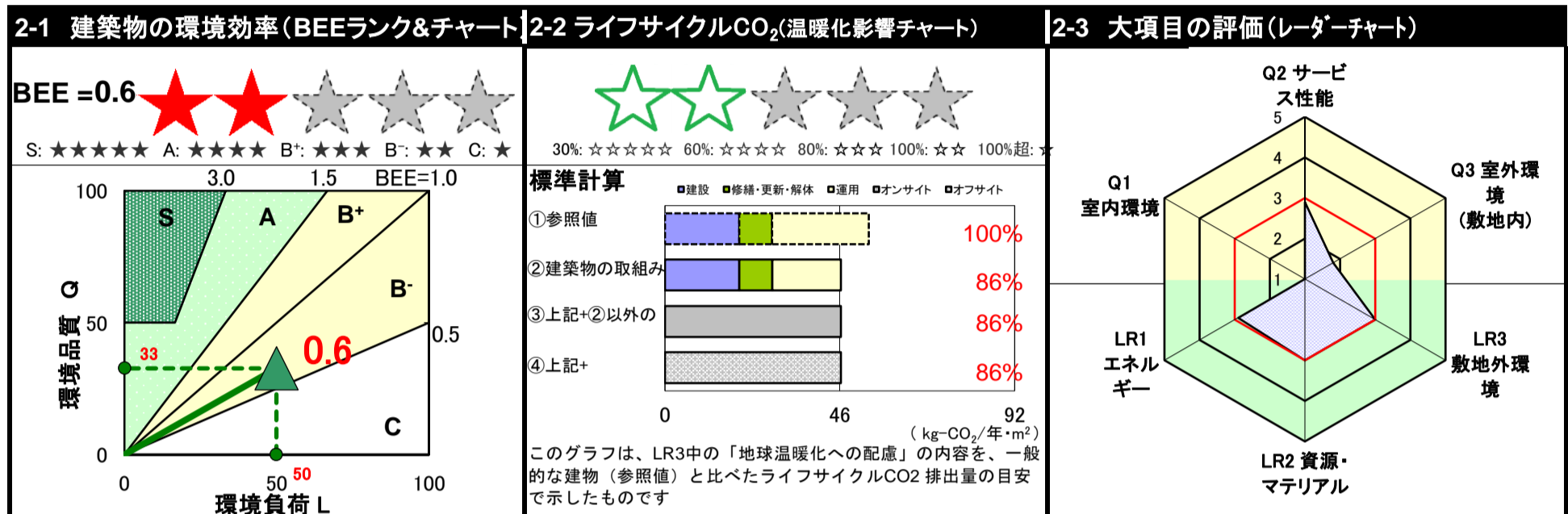


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岩瀬鉄工株式会社八ツ面工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県西尾市八ツ面町切戸177番 他5筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年11月13日
敷地面積	7,951 m <sup>2</sup>	作成者	山旺建設株式会社 設計部 加藤社応
建築面積	4,037 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月14日
延床面積	4,126 m <sup>2</sup>	確認者	山旺建設株式会社 設計部 石塚守



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 <b>3.5</b></p>	<p>③敷地内の緑化 <b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) <b>87.1%</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) <b>0.0%</b></p>
<p>②資源の有効活用 <b>2.8</b></p>	<p>④地域材の活用 <b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 岩瀬鉄工株式会社八ツ面工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.3</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									-	
<b>1 音環境</b>									-	
1.1 室内騒音レベル									3.0	
1.2 遮音									-	
1 開口部遮音性能									-	
2 界壁遮音性能									-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									3.0	
1.3 吸音									3.0	
<b>2 温熱環境</b>									-	
2.1 室温制御									-	
1 室温									3.0	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									3.0	
2.3 空調方式									3.0	
<b>3 光・視環境</b>									-	
3.1 昼光利用									-	
1 昼光率									3.0	
2 方位別開口									-	
3 昼光利用設備									3.0	
3.2 グレア対策									-	
1 昼光制御									5.0	
3.3 照度									3.0	
3.4 照明制御									3.0	
<b>4 空気質環境</b>									-	
4.1 発生源対策									-	
1 化学汚染物質									3.0	
4.2 換気									-	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									3.0	
3 取り入れ外気への配慮									3.0	
4.3 運用管理									-	
1 CO <sub>2</sub> の監視									3.0	
2 喫煙の制御									3.0	
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>2.9</b>	
<b>1 機能性</b>									-	
1.1 機能性・使いやすさ									-	
1 広さ・収納性									3.0	
2 高度情報通信設備対応									3.0	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									-	
1 広さ感・景観 (天井高)									3.0	
2 リフレッシュスペース									3.0	
3 内装計画									3.0	
1.3 維持管理									-	
1 維持管理に配慮した設計									3.0	
2 維持管理用機能の確保									-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>2.8</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.5	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									0.4	
2 免震・制震・制振性能									3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数									0.52	
1 躯体材料の耐用年数									0.48	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔									3.0	
2.4 信頼性									0.1	
1 空調・換気設備									3.0	
2 給排水・衛生設備									1.0	
3 電気設備									3.0	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									2.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>0.4</b>	<b>2.9</b>	0.48	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>0.3</b>	<b>3.8</b>	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		外周351.60m+耐力壁0m/3599.08㎡=0.01	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	<b>2.0</b>	0.31		<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>0.3</b>	<b>3.1</b>	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	1.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		2F西側設備置場に増設・バックアップ用のスペースを確保	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		2F西側設備置場に増設・バックアップ用のスペースを確保	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	<b>1.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	<b>1.0</b>	0.30	-	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	<b>2.0</b>	0.40	-	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>2.5</b>	0.30	-	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BEI=0.71	<b>3.0</b>	<b>1.0</b>	0.20	-	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.10	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=0.71	<b>3.0</b>	<b>3.9</b>	0.50	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>0.2</b>	<b>2.5</b>	0.20	-	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価				<b>1.0</b>	<b>2.5</b>	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>0.1</b>	<b>3.4</b>	0.15	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			節水便器+節水水栓を使用	<b>3.0</b>	<b>4.0</b>	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>0.6</b>	<b>3.0</b>	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>0.6</b>	<b>2.9</b>	0.63	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	2.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.24	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	2.0	0.05	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	LGS下地壁のため容易に分別可+鉄骨造のため躯体と仕上分別可	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.22	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>0.6</b>	<b>3.0</b>	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率86%	-	<b>3.5</b>	0.33	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>2.6</b>	0.33	-	-	-	<b>2.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	<b>3.0</b>	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	<b>2.0</b>	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>3.5</b>	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐輪場の設置+駐車スペースの確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>3.0</b>	0.33	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

岩瀬鉄工株式会社ハツ面工場

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:87.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 岩瀬鉄工株式会社ハツ面工場

計画上の配慮事項	
総合	作業スタッフが快適に作業できる空間を目指しました。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	一般的な材料、工法として更新しやすくした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地面積25%以上の緑地・環境施設を計画した。
LR1 エネルギー	気化放熱敷涼風装置を採用し、冷房に使うエネルギーを削減した。 また冬は、コンプレッサーから発生する温風を工場内に排気し暖房に 使うエネルギーを削減した。
LR2 資源・マテリアル	可能な限りリサイクル資材を使用するように努める。
LR3 敷地外環境	雨水貯留地を設け、短時間の豪雨による排水路の水量増加を抑制する計画 とした。
その他	